



韓国岩盤力学学会 (KSRM) からの招聘による招待講演

著者	楠見 晴重
雑誌名	岩の力学News
巻	76
発行年	2005-08-25
権利	(C)一般社団法人 岩の力学連合会：このデータは一般社団法人 岩の力学連合会の許諾を得て作成しています。The original data is available at: http://www.rocknet-japan.org/JCRMN/RMN_076/RMN_076-10.htm
URL	http://hdl.handle.net/10112/7338

岩の力学 News No.76

韓国岩盤力学学会(KSRM)からの招聘による招待講演

幹事長 楠見 晴重

3月始めに、岩の力学連合会大西理事長のもとに韓国岩盤力学学会(Korean Society for Rock Mechanics)から2005年度のKSRMのAnnual Conferenceを3月31日に開催するに際して、日本の研究者を招聘して、招待講演者の公式な推薦依頼がきました。人選については理事長一任とのことで、日時も迫っていたことから、私が指名されました。私の方としては、3月末には、種々な予定がすでに入っていたのですが、何とか調整して承諾いたしました。2005年の1月には、今年度から始まった創造的提案事業として、岩の力学連合会主催のアジア諸国との国際交流プログラムの第1回として韓国岩盤力学学会に対して、特別講演の招聘依頼を行ないました。韓国岩盤力学学会から、Woosuk UniversityのChee-Hwan Kim教授を推薦して頂き、2005年1月6日、土木学会岩盤力学シンポジウムの期間に特別講演を開催したことは、前回の岩の力学国内ニュースに掲載されました。

私は、3月30日～4月1日まで韓国に滞在しましたがその間、30日の夜には韓国岩盤力学学会の理事長、副理事長、幹事長と懇親会が催されました。その時に初めて3名の招聘研究者が招待されていることを知りました。私以外には、タイのAsian Institute of Technology, Noppadol Phen-wej教授、イランのwater Resources Management Organization Mogtaba Gharavy博士でした。特にタイのPhen-wej教授とは、昨年5月から1ヶ月間、関西大学招聘研究者として、関西大学に滞在していたことから、ソウルでこのような形で再会するとは、お互い大変驚きましたが、ソウルで再会できたことはラッキーでした。写真1は懇親会場（韓国料理店 龍水山）の前で撮ったものです。右からKSRM幹事長のSeoul National University Seokwon Jeon教授、理事長のCEO Hangu Engineering Sang-Yeul Choi博士、筆者、イランのMogtaba Gharavy博士、タイのNoppadol Phen-wej教授、副理事長のkorean Institute of Geoscience & Mineral Resources So-Keul Chung博士です。

2005 Annual Conference and General Assembly for KSRMは3月31日午前10時から、Seoul National UniversityのSamsung Convention Centerで開催されました。写真2は、会場前で3人並んで撮ったものです。午前中は3名の招待講演、午後は一般講演でした。一般講演数は19編あり、Proceedingsは全て韓国語で書かれており、発表も韓国語で行なうとのことでした。招待講演のプログラムは以下のとおりです。

1. 10:00-10:45

Simulation Analysis of Rock Mechanics and Rock Engineering Problems by Distinct Element Method

Prof. Harushige Kusumi

2. 10:45-11:30

The Role of Rock Mechanics in Iranian Infrastructures

Dr. Mojtaba Gharavy

3.11:30-12:15

Rock Mechanics in Design and Construction of Tha Dan RCC Dam

Prof. Noppadol Phen-wej

写真3, 4は講演の様子を撮ったものです。写真5は、今年の1月に岩の力学連合会主催の特別講演会に招聘し、講演して頂いた Woosuk Universityの Chee-Hwan Kim教授とのスナップ写真です。この写真のバックには、多くの花立てが受付の反対側に並んでおり、ほとんどは韓国の建設会社からのものです。現在韓国は、多くの岩盤関係の建設プロジェクトが進行または計画されており、例えば、韓国的高速新幹線KTXの釜山までの新線建設は、その47%がトンネルとのことでした。また、液化天然ガスなどの岩盤内備蓄の建設、計画が進行しています。韓国の発注は建設会社が一括して受注するフルターンキー方式となっており、その審査にはKSRMのメンバーから審査員が選ばれることから、このような花立てが並んでいると聞きました。講演終了後、10分程度の質疑応答が行なわれましたが、種々の活発な議論ができ、大変有意義な機会が持てたことは幸運でした。

岩の力学連合会では、先にも述べましたが創造的推進事業としてアジアとの国際交流を掲げ、昨年度からスタートしたところです。また4年ほど前から東南アジア岩盤工学ワークショップの共催を行っており、今後益々アジア諸国との研究交流が進むものと思われます。日本は社会資本整備が円熟期に差し掛かっておりますが、アジア諸国ではまだこれからの国が多くあり、これらの国では日本の岩盤工学に関する科学技術に期待を寄せています。今後は更にアジア諸国との連繫を強化しつつ、アジアの岩盤力学、岩盤工学の発展に寄与することが望まれます。